

駿河ほねほね団活動報告

佐々木彰央・榎本真司



日本平動物園での活動の様子

静岡市日本平動物園で2018年1月30日～4月1日まで「静岡市まるごと動物園!？」が開催されています。そこでの講座に駿河ほねほね団が協力しました。この企画は本NPOが受託したもので、静岡市全体を動物園に見立てて、市内に生息する中大型哺乳類について知ってもらうことを目的としています。日程は2月18日と25日、3月4日と18日の計4回です。団員以外に、講座内容に興味のある大学生、高校生も協力してくれました。第1回目のスタッフ数は12名で、1日約600名以上の来園者に参加してもらいました。このイベントについての詳しい報告は、講座がすべて完了した後の、次号に掲載する予定です。

さらに、本団体は静岡大学未来の科学者養成スクールの活動で、アカネズミとヒメネズミの骨盤を用いた研究にも協力しました。これら活動や準備の様子を、団員の榎本さんに報告していただきます。(佐々木彰央)

日本平動物園での体験講座の準備を行いました。内容はプラ板作りです。そのため、ほねほねメンバーで試作品を作ってみました。市内に生息する色々な動物の絵の中から1つを選んで、マジックでプラ板に絵を描いた後、オーブンで20秒～30秒ほど加熱します。オーブンから取り出すタイミングを間違えると平らにならなかつたり穴が空いてしまったりとい



アカネズミとヒメネズミの解剖を行う様子

う失敗をしてしまうのですが、みんなタイミングをバッチリつかむことができました。メンバーの中には図鑑や写真からオリジナルの絵を描いてプラ板を作成した人もいました。子供から大人まで幅広い年齢層のほねほねメンバーですが、楽しんでいたのは寧ろ大人たちかもしれません。

10月頃からはアカネズミとヒメネズミの骨格標本を作成しています。この2種は見た目では区別がつけにくく、解剖してみないと同定が難しいです。現状、「頬骨弓と咬板前縁の形状」または「尾長と後足長の比率」から、2種を識別することはできていますが、他の方法でも同定できないか検討しています。そのため、各地のネズミを収集して体重や尾長、後足長、耳長、頭胴長などの基本的なデータを測定して記録しておくだけでなく、骨盤の形状にも注目しながら大量の標本を作成しています。しかし、手のひらサイズの小さなネズミ。気付かないうちに頬骨を折ってしまっていたり骨盤を破損してしまっていたりすることがあります。骨折させないよう標本を作るのは、なかなか骨の折れる作業です。最初はみんな慎重に作業して時間がかかっていましたが、最近は大抵慣れてきたので、除肉作業も種の同定もスムーズに進むようになりました。(榎本真司)